

## ご挨拶 & 座右の銘

事務局長  
松下 庄一



「新年明けましておめでとうございます」

昨年4月から泉佐野市からの派遣で当センターの事務局長に就任しました。これまでの役所勤務から病院勤務に変わり、就任当初は戸惑いの毎日でしたが、日を追うごとに何とか業務のリズムも掴んできたように思っています。病院特有の専門用語など、まだまだ勉強が必要ですが、引き続き、今年も患者サービスの向上に努め、地域住民に納得と安心感を与える患者主体のチーム医療に一生懸命取り組んでまいりますので、よろしくお祈りいたします。

さて、昨年5月、3年以上にわたり、世界的猛威を振るった新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、2類相当から5類感染症へ変更されました。これに伴い、医療提供体制は特別対応から、幅広い医療機関による自律的な通常の対応に段階的に移行し、一定の区切りを迎えました。

## ご挨拶 & 座右の銘

内部統制本部長  
上田 和規  
兼 財務管理監



「新年あけましておめでとうございます。」

世界的な流行から4年、新型コロナウイルスは、昨年5月以降、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から「5類感染症」に移行となりました。

これにより、世の中はウィズコロナからアフターコロナへと大きく加速し、ようやく本来の日常生活に戻りつつあると実感しています。

また、新型コロナ感染対策は、「手洗い等の手指衛生」、「換気」、「三密回避」、「人と人の距離の確保」など、一律には求められませんが、重症化リスクの高い方への感染を防ぐため

## 一生懸命

座右の銘については、私のこれまでの人生で心に留めている、自分自身を奮い立たせる言葉としては、本文にもありますが、「一生懸命」が思い浮かびます。振り返ると、「一生懸命」は何らかの形で様々な困難に直面した時、「一生懸命に取り組んでいけば何とかできる」と自分に言い聞かせ、乗り越えてこれたかと自負しており、これからこの言葉を信念に日々業務に励んでいきたいと思っています。

人の行き来も急速にコロナ禍前の状況に戻りつつあり、関西国際空港も国際線・国内線とも順調にコロナ禍前の状況に回復しており、昨年10月時点の国際線旅客数の回復率が85%、国内線が110%とのこと、当センターが立地する対岸のりんくうタウンでは外国人の姿も本当に多く見かけるようになってきました。

このように、関西国際空港が活気を取り戻し、まちがどんどん賑わっていくことは、前職で関西国際空港とたくさんの関わりのあった私にとって大変喜ばしく思っていますが、その一方で、現職では感染症自体はなくなったわけではないので、こういう時こそ、気を引き締めていかなければならないと改めて肝に銘じている次第です。



## 継続は力なり

何事も継続することで成果につながるということです。人は誰でも途中で諦めてしまうことがあるかと思いますが、たとえ僅かな努力であってもやり続けることで、結果に繋がるものと思っています。今から数十年前、働き始めた時のことを振り返って感じていることですが、今日の自分があるのは、周りの方々のご指導やご協力があったからこそ、今まで頑張ってきたことと思っています。これからも日々仕事に精進してまいりますのでよろしくお祈りいたします。

にも、マスクの着用、手洗いの消毒、こまめな換気などの対策が有効とされていますので、今後も感染対策の継続は必要であります。

現在、インフルエンザも同時に流行している中ですので、体調管理には、十分に気をつけていただきたいと思います。

当法人は、今後も泉州地域の基幹病院として、地域医療と感染症医療に対しても病院一丸となって取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

## ご挨拶 & 座右の銘

副病院長・看護局長  
井出 由起子



「謹んで新春のお慶びを申し上げます」

今年度より副病院長兼看護局長を拝命いたしました井出と申します。新型コロナウイルスと共存しながらも、新しい時代の幕開けとなる今年度に看護局長という大役に身の引き締まる思いであります。スタッフの懸命な努力によって共にコロナ禍を駆け抜けることができたこと感謝しております。看護とは患者さんに寄り添い感じ取ったニーズを提供することが本質であると考えていました。しかし、今回のコロナ禍はそれを覆しました。患者さんに近づけないことは、今までの当たり前がそうではなくなる価値ある経験値となりました。看護の力を発揮するために我々はどうあるべきかを見直す機会となりました。時代はまさしく日本の医療のあり方を問い直す時期に入っています。当センターも今年度は病院機能評価や外国人患者受入れ医療機関認定など、病院機能を多角的に評価する年度でもありました。

## ご挨拶 & 座右の銘

診療局長  
船津 俊宏



兼 心臓血管外科主任部長  
臨床研修副センター長・ICU/CCUセンター長  
心臓・血管センター長・医療安全管理室長  
患者サポートセンター長

## 「地域の皆様、

新年あけましておめでとうございます。」

2023年元旦には、今年こそはコロナの終息、平穏な日常の回復をど切に願ったものですが、その甲斐あってか5月には5類化が実行され、その後約半年をかけて次第に日常に戻ってまいりました。加えて昨年は、ひいきの阪神タイガースが18年ぶりのリーグ優勝（いわゆるアレ）、38年ぶりの日本人を達成し、二重に忘れられない年になりました。当センターも、昨年は一大目標であった病院機能評価受審を無事に終え、また長年

## ご挨拶 & 座右の銘

大阪府泉州救命救急センター所長  
中尾 彰太



兼 Acute care surgeryセンター長  
重症外傷センター長

「謹んで新春のお慶びを申し上げます。」

近年、救急医療は、岐路に立たされています。我々は、これまで重症の患者さんを救命することを一義的な目的として活動してきました。これからもその大方針は変わりません。一方で、高齢化に伴い疾病構造が変化するとともに、一般の方々の医療に対する考え方も変化しています。我々は、患者さんの救命を前提としながらも、そこを突き詰めることに留まらず、患者さんの価値観を最大限尊重した上で、適切な医療を提供することが求められつつあります。

## ピンチはチャンス

たとえ悪い状況になったとしても、この状況だからこそ感じること、生み出せるものがあります。置かれた環境のせいにはせず、どんなに苦しくともその時のベストを尽くせる人でありたいと考え実行しています。治療の選択肢がなくなった患者さんに、それでも希望を与え続けることが看護の本質であり、そのことを実現していきたいと思っています。

自分たちのあり方を振り返りながら、泉州二次医療圏の地域の中での役割を果たすべく、院内のみならず看護管理者としてのリーダーシップを発揮して参りたいと思っております。

この原稿作成時、令和6年度診療報酬改定の基本方針の概要が出されました。デフレ完全脱却とその後の総合経済対策を踏まえた上で、不安定な世界情勢とそれに伴う物価高騰、生産年齢人口の減少といった背景の中に対応していく必要がうたわれていいます。社会保障制度の安定性、医療DX（デジタルトランスフォーメーション）やイノベーションの推進などによる質の高い医療の実現を目指しているを理解します。決して順風満帆ではない条件の中でより成果をあげることが求められています。ピンチを楽しみながらチャンスに変えて、厳しい社会情勢にも屈せずに患者さん中心の医療・ケアを提供できるよう、より一層努力する一年としたいと思います。どうぞよろしくお祈り致します。

座右の銘とは、常に自分のそばにおいて繰り返し確認する言葉、ということのようですが、正直あまりそうしたものは意識したことがありません。むしろ一つの考えにとらわれず、臨機応変で柔軟な考え方を持って、極力他人の意見に耳を傾けるということを自戒として、57年生きてまいりました。

の課題でありました手術室の増室をハイブリッド手術室という形で着工し、さらには師走には手術用ロボット「ダビンチ」の導入も終えました。本年の大きな目標は、増室が叫ぶ手術室をフル稼働し、ロボット手術を含む外科手術数を増やし、さらにはハイブリッド手術室を使った経カテーテル弁置換を開始することに他なりません。もちろん内科系各診療科や救命診療科も、一層の努力を持って診療にあたる覚悟であり、引き続き泉佐野泉南地域における医療の中核としての役割を果たすべく、地域に信頼され続ける医療センターであり続けるよう取り組んで参る所存です。今年一年も引き続きご幸よろしくお祈り申し上げます。

## 守破離（しゅはり）

「守破離（しゅはり）」という、茶道などで使われる言葉があります。何かを習得するためには、まず基本に習い「守」、次に工夫して発展させ「破」、最後に全てを超越した新たな価値を生み出す「離」ことを目指せ、という教えです。私は、この言葉を、救急医としての研鑽のみならず、人生の教訓として捉えています。残念ながら未だ「離」の境地に達するイメージは見えませんが、日々精進する心を忘れず過ごそうと思っています。

個々の患者さんにとって「自分らしく生きる」とは？その中で命に関わる状態に追い込まれた時にどのような治療を受けたいか？我々はどのような医療を提供すべきか？当センターのスタッフは、この難題に正面から取り組むべく、今後より一層心掛けるべきことは、患者さんが個別に抱えている思いやニーズに合わせてきめ細やかな対応であることを心に留め、患者さんに真に信頼される救急医療を提供すべく、これからも一同精励してまいります。今年もよろしくお祈り申し上げます。

## ご寄附のお願い



りんくう総合医療センターでは、皆様に安全で安心な生活をお過ごしいただけるよう地域の医療を守っています。当院の運営にご理解いただき、ご寄附をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

●泉佐野市ふるさと納税を活用した応援寄附金も募集しております。

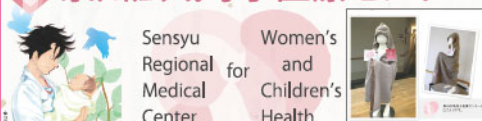
泉佐野市ふるさと納税からのご寄附の際、寄附の使途として「メディカルプロジェクト（医療環境整備）」を選択していただくこと、寄附金の一部がりんくう総合医療センターの病院運営に活用される仕組みとなっております。ぜひ、泉佐野市ふるさと納税をご活用いただき、当センターを応援してくださいませ、よろしくお願い申し上げます。

QRコード



詳しくは当院webサイトをご覧ください。

## 泉州広域母子医療センター



Sensyu Regional Medical Center Women's and Children's Health

●周産期センター（産科・小児科）

平成20年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科と市立貝塚病院産婦人科はひとつの組織として統合されました。りんくう総合医療センターは「周産期センター」として泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として運用しています。

QRコード



詳しくは当院webをご覧ください。